

STAGE+を楽しむ(25)(HP 収載)
—ガーディナーによる“慰めの音楽”—

1. 始めに

前報(24)に引き続き、STAGE+の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ガーディナーによる“慰めの音楽”の演奏を選びました。ガーディナーの80歳の誕生日記念という演奏です。

作品の概要と演奏者は次のとおりです。

ガーディナーによる“慰めの音楽”プログラム

バッハ、シュッツ、シャイン

収録日: 2022年6月10日

2022年6月、ガーディナーは自ら創設したモンテヴェルディ合唱団(1964年～)とイングリッシュ・バロック・ソロイスト(1978年～)を率いて“慰めの音楽”プログラムによる欧州ツアーを行い、バッハと彼に先立つこと100年前の初期バロックを代表する2人の作曲家、シュッツとシャインの作品を演奏しました。この映像はそのうち同団体らのロンドンでの拠点であるセント・マーティン・イン・ザ・フィールズ教会で行われた演奏会を収録したものです。これらは主に親しい人に先立たれた遺族のために書かれた音楽であり、聴く者に清らかなカタルシスを与えてくれるでしょう。

ソリスト:

ヒラリー・クローニン(ソプラノ)、ティム・モーガン(アルト)、レジナルド・モブリー(アルト)

アンサンブル:

イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団

指揮:

ジョン・エリオット・ガーディナー

ハインリヒ・シュッツ 《汝の若き時よりの妻に喜びを抱け》SWV 453

ハインリヒ・シュッツ

《ダヴィデ詩篇集》より〈エフライムはわたしの愛する子であろうか〉SWV 40

ヒラリー・クローニン(ソプラノ)

レジナルド・モブリー(アルト)

ヨハン・ヘルマン・シャイン 《ヤコブは子等に命じ終わると》

ハインリヒ・シュッツ

《宗教的合唱曲集》より 〈山の上で大きな悲しみの声が聞こえた〉 SWV 396

レジナルド・モブリー(アルト)

ティム・モーガン(アルト)

ハインリヒ・シュッツ 《音楽による葬送》 Op. 7, SWV 279-281

ヨハン・セバスティアン・バッハ 《神の時こそいと良き時》 BWV 106

ヨハン・セバスティアン・バッハ

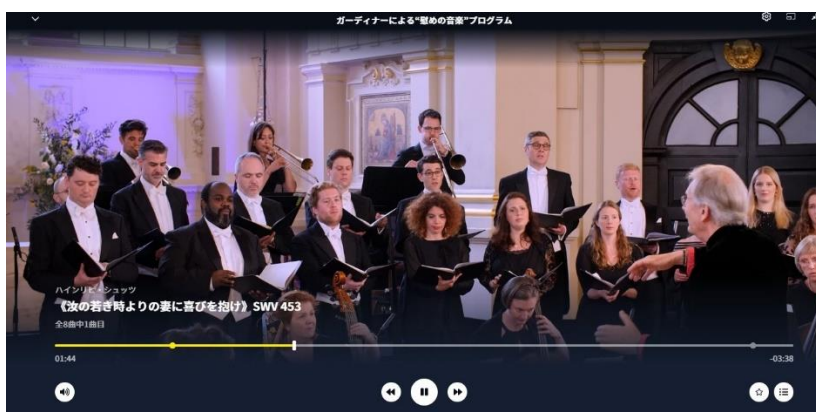
モテット 〈おおイエス・キリスト、わが命の光〉 BWV 118

ヨハン・クリストフ・バッハ 〈わが命、今やつき〉



3. 試聴の経過

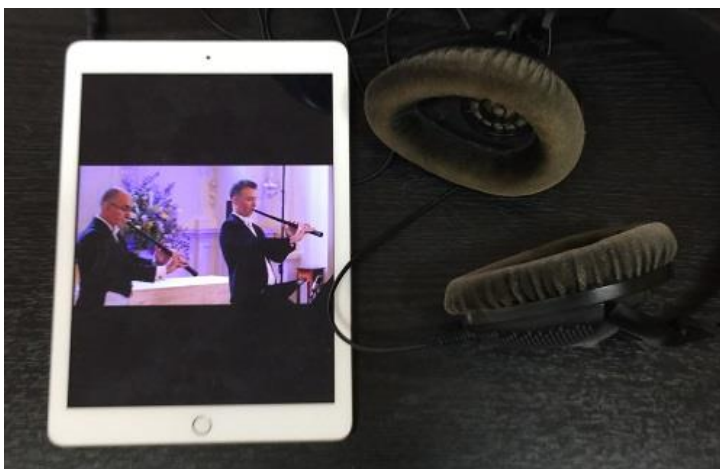
ガーディナーによる“慰めの音楽”プログラムとありますが、故人を偲び、宗教的な安らぎをもたらす、二人のバッハとシュッツ、シャインの曲の演奏です。





シュッツとシャインは初めて聴く名前ですが、ネット情報によるとサムエル・シャイトとともに 3S と称されて、ドイツの初期のバロック音楽を代表する作曲家だそうです。バッハに先立つこと 100 年前にドイツ音楽を構築したことになります。バッハに先立つ音楽ということで、見慣れない古楽器が演奏され、ガーディナーの穏やかな指揮の下、古楽器群と合唱とソロの歌唱が典雅に演奏されます。シュッツとシャインを聴くと、このような作曲が先にあって、バッハの音楽が出来上がってきたということが分ります。バッハの《神の時こそいと良き時》はお馴染みの曲です。

STAGE+の当初のアナウンスでは、PC による受信のみが可能でモバイルはサポート外というようなことと理解していましたが、試みにタブレットからアクセスして、ID/PW を入力すると再生が可能でした。操作性も PC と同様に良好です。音声出力は、タブレットの音声以外にヘッドフォン端子でも聴くことができ、なかなかの音質レベルです。USB 変換器経由で USB DAC の micro iDSD のヘッドフォン出力でも聴いてみましたが、音切れが発生しますので、タブレットのヘッドフォン端子で聴くことになります。お気に入りにも登録しましたので、気軽にさっと聴くことができます。



4. まとめ

STAGE+配信のガーディナーによる“慰めの音楽”の演奏は、文字通り、穏やかな宗教的な安らぎをもたらす演奏でした。これまでの仮想アース、MRF-005T に加えてスピーカーアキュライザーや LAN iSilencer の効果も確認できました。

以上